北摂SATOYAMA国際セミナー
里山を未来につなぐ
～里山保全活動の活性化と次世代への継承～

日 時：平成30年 11月10日（土）12:45～17:00
場 所：宝塚ホテル すみれの間（宝塚市梅野町1-46）
内容：基調講演・海外報告・パネルディスカッション
定 員：100名 ※要申込（先着順） 参加費 無料

主催：兵庫県関東北摂県民局、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）、地球環境戦略研究機関（IGES）、北摂里山博物館運営協議会
協力：兵庫県立人と自然の博物館、SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）事務局
後援：武庫川流域環境保全協議会
開催趣旨
「北摂SATOYAMA国際セミナー」は、国内外への北摂里山の魅力の発信の強化と、持続的な保全に向けた取組みや新たな里山の利活用等についての検討を進めるため、平成26年度以降、国際機関等と連携して開催している。

5回目となる今回は、「里山を未来につなぐ～里山保全活動の活性化と次世代への継承～」をテーマに、里山の保全活動を維持発展させていくための国内外の取組事例（成功事例）を学び、里山保全活動の活性化と新たな担い手確保の方策を考える。

講師
今森 光彦（写真家）
1954年滋賀県生まれ。大学卒業後独学で写真技術を学び、1980年よりフリーランスとなる。琵琶湖を基軸とし、自然と人との関わりを「里山」といいう概念で捉える一方、熱帯雨林から砂漠まで世界各国を訪ね、取材をつづける。また、BSプレミアム等の番組にも出演、里山での暮らしや魅力について積極的に発信している。主な受賞歴に、木村伊衛写真賞、日本写真協会年度賞、毎日出版文化賞、産経児童出版文化賞、土壌栄養賞がある。

パチカ・ムーア（フ・ヴァンガ・オ・マトゥア大学講師・研究員）
ニュージーランドの原住民族のマオリ族がティラウカワ族に属する。長年にわたり、マオリ文化の言語と文化の再活性化を目指して、研究及び教育活動に従事する中で、特に自然環境の保護に着目する。活動の根源には、森羅万象（しんろばおう）が繋がっているというマオリの世界観があり、人間にはこの繋がりを大切にす

ジャパン・ブーダン（ブータン王立大学民主幸福量研究所）
2003年にインド北ベンガル大学の学士号取得、2012年にオーストラリア・ニューキャッスル大学大学院修士号（社会文化・開発）。ブータン王立大学民主幸福量研究所にマネージャーとして在職。持続可能な開発、環境保全、国民の健康管理、また、水資源管理など多岐にわたって従事。国民の生活レベル向上、持続可能な発展及び国民総幸福量の達成への取り組みに参加している。

パネルディスカッション（里山サミット）

■ コーディネーター
中瀬 紘（兵庫県立人と自然の博物館館長　兵庫県立淡路景観園芸学校学長）
大阪府立大学農学部卒業（70年）、同大学農学研究科修士課程修了（72年）、同大学助教授、カリフォルニア大学客員研究員、兵庫県立大学大学院環境景観マネジメント研究科長。兵庫県立淡路景観園芸学校校長（2009.4-2011.3）、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、兵庫県立人と自然の博物館副館長を経て、現職。

■ パネルディスカッション参加団体

■ 認定NPO法人穴場の自然と歴史の会 [茨城県土浦市]
1989年発足。第8年に定義設計、2010年認定特別非営利活動団体の認定を受ける。茨城県土浦市で市街地近郊における100haの里山保全を行うポランテリア団体であり、日本における里山保全の先駆けとなった。会員数約400名。理事長：及川ひろし、2005年「ふるさとづくり賞」内閣総理大臣賞受賞

■ NPO法人上山高原エコミュージアム [兵庫県新温泉町]
2004年設立。兵庫県北部の南 bande 山に広がる上山高原などを博物館とし、地域の資源を保全・再生する「上山高原エコミュージアム」の取り組みを通じて、自然を守り育み、自然と共生してきた地域の自然を活かした地域交流により、自然の次世代への継承と地域の活性化をめざしている。会員数約100名。代表：中村幸夫、2014年自然環境功労者環境大臣表彰受賞

■ NPO法人山里倶楽部 [大阪府南河内郡河内町]
1989年に前身団体、1995年に仮設団体設立、2002年に法人格取得。「好きなこととして、そこで格付けて、いい里山をつくる」を理念に里山保全活動を実施。2016年から「新しい里山的生き方・暮らし方の提案」を新理念として活動展開。主な活動地は大阪府南河内郡河内町、会員数約120名、代表理事：山本良一

■ 樹勢の会 [兵庫県宝塚市]
1999年設立。笛部新太郎氏没後寄贈版であった「赤木山荘」（えきらくさんそう）が、1999年宝塚市の里山公園「桜の園」として再出発。このとき行われた桜桜樹会の参加者が中心となり発足。会員数約120名、代表：井田喜夫、2016年地域環境保全功労者環境大臣表彰受賞
テーマ: “里山を未来につなぐ” ～里山保全活動の活性化と次世代への継承～
日時: 11月10日（土）12:45～17:00
場所: 宝塚ホテル すみれの間（宝塚市梅野町1－46）

12:50～ 基調講演
「里山の魅力」 今森 光彦（写真家）
写真集「里山物語」とNHKスペシャル等で里山に関する珠玉の映像を発表してきた写真家が、自ら撮影した映像を紹介しながら、里山に惹かれた理由や里山が日本人の文化や感情に与えた影響など「里山の魅力」について語るとともに、里山を「未来の風景」として維持していくための課題を提起する。

13:50～ 海外報告
● バタカ・ムーア（テ・ヴァンガ・オ・マトゥア大学講師・研究員）
「マオリ族の世界観と生態系の保全 ～伝統の次世代への継承～」
ニュージーランドの原住民族マオリ族の伝統、文化、世界観の次世代への継承に焦点をあてつつ、自然環境と人間社会のあり方を将来期次世代の育成、また現地コミュニティー（マオリ族ではない住民を含む）との対話と連携の必要性のなかで、具体的な活動の計画と実施、成果及び課題等について報告する。
● ジャパン・トプデン（プートン王立大学国民総幸福量研究所マネージャー）
「持続可能な国土開発と国民総幸福量 ～未来を担う次世代の育成～」
プートン王国特有の「国民総幸福量」を念頭に、国土のほとんどが山岳地のプートンにおいて、森林、農業、インフラの整備等と持続可能な開発目標の両立へ向けた取り組みについて報告する。またグローバル化が生む社会変化と古い文化、伝統などの次世代への継承活動が直面する課題に着目する。

15:05～ パネルディスカッション
● コーディネーター
中瀬 勲（兵庫県立人と自然の博物館館長・兵庫県立淡路探査園芸学校校長）
● パネリスト
・バタカ・ムーア [テ・ヴァンガ・オ・マトゥア大学講師・研究員]
・ジャパン・トプデン [プートン王立大学国民総幸福量研究所マネージャー]
・及川 ひろみ [認定NPO法人六塚の自然と歴史の会理事長]
・寺川 裕子 [NPO法人里山倶楽部理事]
・馬場 正男 [NPO法人上山高原エコミュージアム事務局長]
・近藤 茂 [桜守の会副代表]